

ファイファ FIFFA女子ワールドカップ日本代表・川村優理選手に賛辞の楯を贈呈

市では、6月から7月にかけて開催された「FIFFA女子ワールドカップ カナダ2015」において、日本代表選手として2試合に出場し、準優勝に貢献した川村優理選手に、9月18日、「賛辞の楯」を贈呈しました。

賛辞の楯は、芸術、文化、スポーツなどの分野で優れた功績を残した市にゆかりのある個人や団体に贈るものです。

川村選手は、昨年1月からベガルタ仙台レディースで主力として活躍しており、大胆かつ果敢にポ



奥山市長より賛辞の楯を受け取る川村選手（左）

仙台の公共空間を利活用したまちづくりを検討しています

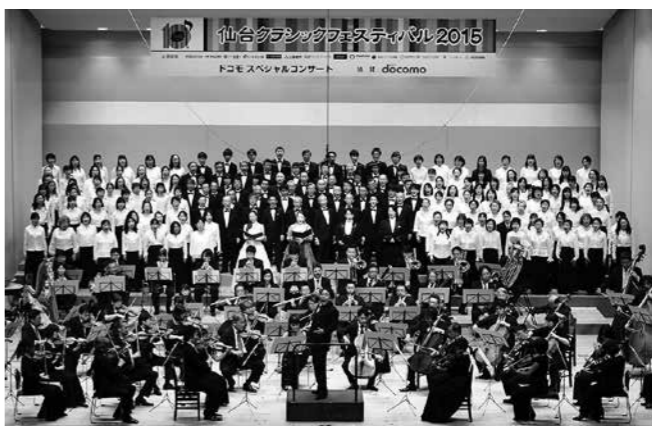
市では、民間の遊休不動産や公共空間を利活用する「リノベーションまちづくり」について検討を進めています。民間事業者や有識者の意見を取り入れるため、9月に検討委員会を設置。10月7日にエル・パーク仙台で、「第2回せんだいリノベーションまちづくり計画検討委員会」を開催しました。

委員会では、定禅寺ストリートジャズフェスティバルでの公共空間の利活用例をはじめ、さまざまな事例が紹介されたほか、道路や公園などの公共空間を民間に開放し、まちのにぎわいを創り出すアイデアが数多く出され、活発な意見交換が行われました。

今年8月に本市が指定を受けた国家戦略特区では、規制改革メニューの一つとして、道路空間を有効活用するための民間開放を掲げています。今後も具体的な検討を

進め、にぎわい創出や都市マネジメントの強化につなげていく予定です。

音楽に彩られた3日間―せんくらが閉幕



第九合唱団とともに華々しく締めくくられたフィナーレ

10月2日から4日までの3日間、第10回仙台クラシックフェスティバルが開催されました。日立システムズホール仙台など4施設で、著名な音楽家たちによる演奏会が86公演行われ、延べ約3万7400人の観客がクラシック音楽を堪能しました。今年も10周年を記念した特別なプログラムも行われたほか、地下鉄駅構内などでも無料演奏会が開催されました。

復興へ駆ける

もっと、仙台を知ろう―仙台市史、完結

仙台市長 奥山恵美子



平成元年に市制百周年記念事業の一つとして着手が決まった仙台市史編さん事業。足かけ27年の歳月をかけ、本年2月に無事、完結となりました。

仙台市史は、これまでも明治・戦前・戦争直後の3回刊行されてきましたが、1市2町との合併による市域拡大や、戦後40余年を経て市民の暮らしがが大きく変化したこと等を踏まえ、新たな発刊を志すこととなったわけ。その際、カラー写真等を多用して親しみやすい市史とすること、また、後世の研究のためにも、資料編を充実させることとしました。

こうして、全30巻の市史の刊行に向けて作業を始めたのですが、次々と難題が降りかかってきました。その一つが「旧石器ねつ造事件」。平成11年に「通史編 原始」を送り出してわずか1年半後に、お示しした多くの最新の研究成果がねつ造されたものであることが判明したのです。教育委員会、編さん委員会、専門委員会、議会等でさま

ざまな議論が行われた結果、改訂版を出すことに。本市の学術研究に対する一つの見識を示したものと考えられます。

また、完結までもうひと息という時に発生した東日本大震災は、多くの人命や財産を奪い去っただけでなく、市史が取り扱う地域社会や歴史的景観・資料まで破壊してしまいました。それでも、市史編さんの過程で培われた情報や人のつながりが、震災後の文化財保護に生きたこととは、せめてもの慰めでした。

一方、伊達政宗の文書が全国に2千点近くも残っていたことがわかるなど、大きな喜びもありました。おかげで「資料編 伊達政宗文書」は、当初の2巻から増巻しなければなりませんでしたが、うれしい悲鳴です。こうしてさまざまな苦しみを経て世に出た平成版仙台市史。12月5日からは、企画展「せんだい再発見！―こんなことわかりました。平成の『仙台市史』」が仙台市博物館で開催されます。ぜひ、足をお運びください。

宇和島伊達家の名宝を公開

博物館では11月23日まで、特別展「宇和島伊達家の名宝―政宗長男・秀宗からはじまる西国の伊達」を開催しています。愛媛県宇和島市との歴史姉妹都市締結40周年を記念したこの特別展では、二つの藩の歴史的つながりを軸に、宇和島伊達家に伝来した名宝の数々を展示します。



地域の防犯活動に貢献された方を表彰

市では、長年にわたり地域における防犯活動に取り組んでいる方々を毎年表彰しています。

10月13日に行われた全国地域安全運動第27回仙台市大会で、101人の方々を表彰しました。このうち、防犯功労団体・防犯功労者として表彰した方、退任感謝状を贈呈した方のお名前は、次のとお

地域防災リーダー養成講習会を実施

市では、地域における自主防災活動の中心的な役割を担う人材を育成するため、平成24年度より「仙台市地域防災リーダー養成講習会」を実施しています。昨年度に392人を認定し、地域の防災訓練などで活躍していただいています。

本年度の講習会は10月から11月にかけて行われており、10月3日に青葉消防署で行われた講習会には、42人の方が参加しました。

講習会では、自分の住んでいる地域の特性を生かした防災マップや自主防災計画づくりの手法、情報収集・伝達方法、避難誘導の基礎知識などについて学びました。また、災害時に迅速に対応できるよう初期消火や救出などの実践訓練も行いました。



地図上に災害時の危険地域などを書き込んで防災マップを作成

りです（順不同・敬称略）。

〔防犯功労団体〕(株)エマルシエさくら野百貨店仙台店、霞目町内会、桜木町町内会、八幡・国見・貝ヶ森地区防犯協会、卸町防犯協会、岩切今市防犯協会

〔防犯功労者〕佐藤雅英、森光弘、四籠亮松、沼倉尚、早坂克成、東海林義一、横山ヤエ、鈴木憲一郎、板鼻貞夫、櫻井健伍、寺岡良一〔退任〕遠藤精一、今野禎二、村上清一、太田清喜、菅原浩紹、石川亨、佐藤恭子、佐久間コマヨ、加藤栄子、和田孝子

「晩翠わかば賞」「晩翠あおば賞」受賞者が決まりました

仙台出身の詩人で「荒城の月」などの作品で知られる土井晩翠の業績を記念して顕彰される「晩翠わかば賞」「晩翠あおば賞」の本年度の受賞者が決定し、10月18日に仙台文学館で贈呈式が行われました。

東北6県と国内姉妹都市の小学生の詩作品を対象とした晩翠わかば賞には、鈴木藤登さん（仙台市在住・小学1年生）の「よふかし」が、同じく中学生の詩作品を対象とした晩翠あおば賞には漆澤好美さん（岩手県宮古市在住・中学2年生）の「空」が選ばれました。